

# 漁況予報 いわし

## 第110号

2002年 3～4 月漁期  
(2002年3月8日発行)

### ＝ 概況 ＝

#### まいわし

1月のマイワシ漁況は、東京湾及び相模湾西部の定置網を中心に大羽イワシ主体で昨年同期以上の入網がありました。定置網によっては、東京湾で上旬～中旬にかけて500kg/統/日前後、西湘地区で中旬に同200～500kgの入網が数日ありました。一方、中型まき網は、上旬に東京湾側で20トン弱の漁獲があった以外は漁獲はありませんでした。2月に入ると、全域で極めて散発的な漁模様で終始し、定置網では殆ど漁獲がなく、まき網では全くありませんでした。今後、産卵のため大羽イワシ群は基本的に沖合へ逸散していきますので、昨年11～12月に記録的な好漁をもたらした暖水波及に代表される海況変動が起きない限り、今漁期は散発的な漁模様で終始すると思われま

#### かたくちいわし

1月の主要定置網におけるカタクチイワシ漁は、西湘地区で昨年同期を上回った定置が何ヶ続かあったものの、東京湾～湘南地区では下回る定置が多く、全体では8トンと、昨年並みの漁獲量となりました。2月に入ると、三浦地区で100kg/日前後の入網が数日あった定置が何ヶ続かあり昨年同期を上回り、湘南～西湘地区では散発的な漁模様で終始しましたが、大楠地区では20日に4トン強の漁獲がありました。

一方、佐島地区のまき網は、昨年同期は2ヶ月で20トンの漁獲量でしたが、今年

は約50トンの漁獲があり、一部はカツオ用餌イワシとして生簀で蓄養しています。今漁期後半以降、沖合からの大型成魚の来遊が主体となりますが、資源水準が過去2年と比べて低いと見られていますので、大きく漁獲量が伸びることは期待できないでしょう。

#### しらす

1、2月はしらすの禁漁期間中ですが、当所では長井～平塚地区にかけて特別採捕許可による試験操業を実施しました。昨年は、どのポイントでもマシラスの混獲割合が高く、越冬カタクチシラスも比較的漁獲されましたが、今年は江ノ島以東ではカタクチシラス主体、相模川～花水川河口域ではマシラス主体と二極化したのが大きな特徴でした。ただし、前者の漁獲量は極めて少ないものでした。江ノ島～茅ヶ崎沖は昨年同様、原因は不明ですが全くと言っていい位、反応がありませんでした。

解禁直前の3月の調査では、昨年同様、際にも沖（水深50m線）にも殆ど魚探反応がなく、今年に入り生まれたと思われる個体の出現も確認できませんでした。このことから、今年の春漁期のスタートは昨年のように3月は不漁で、4月に入ってから漁期入りとなりそうです。

### ＝ 予報 ＝

#### まいわし

今漁期は、産卵のため魚群が沖合へ逸散してしまいますので、まとまった漁獲は期待できないでしょう。

定置網を主体に中・大羽の漁獲が散発的にあると思われ、まき網には殆ど漁獲がないものと思われます。

今漁期の漁獲量は、約30トンと予測されます。

\*縦軸：主要定置網＋まき網

#### かたくちいわし

今漁期は、前半は小型成魚が、後半は大型成魚が漁獲の主体となります。

一般的にカタクチイワシ資源は、ここ数年減少傾向にありますので、漁況が大幅に好転することはないでしょう。

今漁期の漁獲量は、約95トンと予測されます。

#### しらす

今漁期は、春生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となりますが、試験操業の結果及び大型成魚の資源量が極めて低いことから、本格的な春漁期入りは今漁期後半になるでしょう。漁期中はマシラスも昨年並に混獲され、ウルメシラスは漁期を通じて若干混じる程度でしょう。

今漁期の漁獲量は、約70トンと予測されます。

過去5年の3・4月漁期の漁獲量と今漁期の予測量

